

2013年度跡見学園女子大学附属心理教育相談所活動報告

1. 2013年度 年間活動報告

所員の構成

2013年度の相談所の所員構成は、相談所相談員・補助相談員（臨床系教員）10名、事務担当者1名、インテーク面接担当者6名であった。

平成25年度相談員・補助相談員と開所日

2013年度相談所開所日と相談員・補助相談員は以下のごとくであった。

2013年4月2日（火）から2013年8月3日（土）および2013年8月19日（月）から2014年3月31日（月）までは週6日開所とした。2013年12月30日（月）から2014年1月8日（水）の冬季休業中は閉所とした。

相談員	野島 一彦（臨床心理学科・教授）
	松崎くみ子（臨床心理学科・教授）
	宮岡 佳子（臨床心理学科・教授）
	酒井 佳永（臨床心理学科・准教授）
	宮崎 圭子（臨床心理学科・准教授）
補助相談員	片野 智治（臨床心理学科・教授）
	中野 敬子（臨床心理学科・教授）
	藤澤 伸介（臨床心理学科・教授）
	山口 豊一（臨床心理学科・教授）
	阿部 洋子（臨床心理学科・准教授）

相談所周知のための活動

本相談所のパンフレットを、他大学相談所等（88カ所）、臨床心理学科カウンセリング実習実習校（24校）、近隣小・中・高等学校（38カ所）、近隣の保育園・幼稚園・放課後児童保育室（53ヶ所）、教育委員会・教育相談センター等（8カ所）、埼玉県内の病院・クリニック（3カ所）、保健センター・児童相談所・子育て支援センター等（17カ所）、その他民間相談室等（7ヶ所）に送付し、あわせて本学公開講座受講者、本相談所無料講習会受講者にも配布した。（下記表参照）

大学相談所、教育委員会、病院・クリニック、保健センター・児童相談所、子ども相談室・子育て支援センター等にはポスターも送付した。

また、新座駅・志木駅構内掲示板へのポスター掲示および東京新聞ショッパー（川越版）への広告掲載も行なった。

さらに日本臨床心理士会のホームページ（臨床心理士に出会うには）への掲載も行なった。

表1. パンフレット送付先 (2013年6月～9月発送)

分 類	箇所	分 類	箇所
カウンセリング実習実習校	24	他大学相談所等	88
近隣小・中・高等学校	38	病院・クリニック等	3
近隣保育園・幼稚園・放課後児童保育室	53	不登校生の親の会等、民間相談室	7
保健センター、児童相談所、子育て支援センター等	17	公開講座、講習会	2
教育委員会、教育相談センター等	8		
合 計		240ヵ所、計2110部配布	

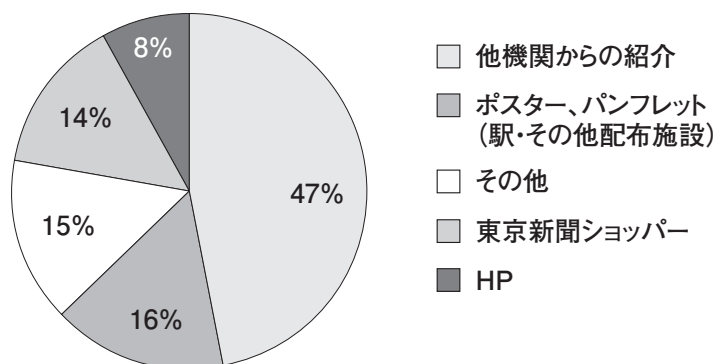


図1 2013年度来談者経路内訳

【相談所パンフレット】



跡見学園女子大学 心理教育相談所



■新座キャンパス 心理教育相談所

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6 TEL:048-478-2177

■文京分室 ATOMI さくらルーム

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-4 跡見ギャラリー2階 TEL:03-3944-8151

<http://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/index.html>

【ご相談内容】

跡見学園女子大学 心理教育相談所では、以下のような相談をお受けしています。

学校に関する悩み

- 学校にいけない
- いじめにあっている
- 友達とうまく付き合えない
- 学業について困っているなど

家庭生活に関すること

- 非行や家庭内での暴力に困っている
- 夫婦・親子・家族関係に悩みがある
- 近所付き合いについて悩んでいる
- 生活環境に問題があるなど

職業に関すること

- 仕事が好きない
- 仕事にいけない
- 職場の人間関係で困っている
- 就職・転職について悩んでいるなど

育児や障がい児の教育の悩み

- 子育てに困っている
- 障がい児のことで悩んでいる
- 障がい児にどう向き合おうか困っている
- 障がい児をいかに育てるかを知らいたいなど

自分自身の性格や健康

- 人と話すのが苦手だ
- 自分の性格について悩んでいる
- 自分の精神的健康に自信がないなど
- 生き方について悩んでいるなど

※このようにご相談に対して、カウンセリング、心理療法、心理テストなどを行っています。 ※ご相談内容につきましては秘密厳守いたします。
※ご相談の内容によってはお引き受けできない場合がございます。

不登校を考える親の会(新座：第1、第3金曜日の午前10時～12時、文京分室：第2、第4木曜日の午後13時～15時)

【受付から相談まで】

本相談所は完全予約制となっております。まずはお電話にてお申し込みください。

【予約受付電話番号】 受付時間：午前9時～午後4時

新座キャンパス心理教育相談所 **048-478-2177**

文京分室 ATOMIさくらルーム **03-3944-8151**

初回の相談の予約をお取りし、ご相談の詳しい内容やこれまでの経緯、その他必要と思われることについて、臨床心理士およびカウンセラーが伺わせていただきます。

※電話での相談は受け付けておりません。また、大学の長期休暇等で受付時間を変更する場合があります。

※現在ほかの医療機関や相談機関にかかられている方は、治療担当者にご相談の上、お越しください。

- ・本相談所は臨床心理学専攻の大学院生の研究機関を兼ねています。
- ・大学院生が随席および相談を担当させていただく場合がございます。



面接室

毎年5回程度、教員による心の問題をめぐる「講習会」(無料)を開催[詳細はホームページ]

2. 相談活動報告

2013年4月1日から2014年3月末日までの相談としては、新規来所件数52件、延べ相談件数730件、延べ来所人数848名であった。

来談者の主訴は、子どもの学校における問題、引きこもり、親子関係の問題、家族の問題など現代の世相を反映する傾向が認められた。月別来談者数および相談内容は以下のごとく。

表1. 月別来談者数

2013年4月～2014年3月末日の来談者数（5月以降、文京分室ATOMIさくらルームを含む）

	初回相談件数(件)	延べ相談件数(件)	延べ来所人数(名)
2013年4月	2	45	56
5月	6	51	60
6月	5	58	68
7月	7	59	67
8月	0	36	44
9月	2	54	60
10月	9	75	80
11月	4	79	89
12月	7	81	104
2014年1月	2	66	77
2月	3	53	58
3月	5	73	85
2013年度合計	52	730	848

表2. 来談者の相談内容

2013年4月～2014年3月の来談者の主訴

来談者による主訴の種類	件数
家族の相談	36件
自分自身の問題・性格	30件
抑うつ、情緒不安定	20件
対人関係	11件
不登校	6件
不登校の親の会	4件

3. 不登校を考える親の会報告

わが国の小・中学生の不登校は相変わらず10万人を超えている。そのような子どもに対して直接働きかけることは非常に難しく、次善の対応として親へのサポートがある。本相談所でもそれを行うべく、相談活動の一環として「不登校を考える親の会」を月に2回（新座キャンパス：第1、3金曜日の10時～12時、文京分室ATOMIさくらルーム：第2、第4木曜日の午後1時～3時）、開催している。来年度も継続して活動していく予定である。



跡見学園女子大学附属心理教育相談所 「不登校を考える親の会」のご案内

小・中学生の不登校は、相変わらず10万人を超えています。学校に行かない子どもには、ひとりひとりそれなりの事情があります。

学校に行けない、行きしぶる、教室に入れない、朝起きられない、朝になると体調が悪くなる、イライラしている、落ち込んでいる、昼夜逆転している、部屋に引きこもっている、友達とうまくいかない、こんな様子はありませんか。

このような子どもをどう理解すればいいのか、どう向き合えばいいのか、親の会で、みなさまと一緒に話し合い、考えてみませんか。

- *担当スタッフ：野島一彦（所長 跡見学園女子大学教授 臨床心理士）
宮辺美夏（スクールカウンセラー 臨床心理士）
相談所所属
- *日時・場所：平成25年4月5日より平成26年3月15日まで
（新座キャンパス心理教育相談所、文京分室ATOMIさくらルームともに開催しています。）

新座キャンパス心理教育相談所

第1・第3金曜日 10:00～12:00（2時間）

<http://www.atomi.ac.jp/daigaku/institution/access.html>

文京分室ATOMIさくらルーム

第2・第4木曜日 13:00～15:00（2時間）

<http://www.atomi.ac.jp/univ/shinri/facility/index.html#bunkyo>

※継続的な参加、単発的な参加どちらでも可能です。

*定員：10名

*参加費（相談料）：1回500円

*申し込み方法：希望日の1週間前までに、下記へお電話でお申し込みください。



申し込み・お問い合わせ

跡見学園女子大学附属心理教育相談所（埼玉県新座市中野1-9-6）

TEL 048-478-2177（相談受付/月～土 9:00～16:00）

ホームページ <http://www.atomi.ac.jp/daigaku/shinri/index.html>

4. 講習会報告

多くの方々に本相談所の存在を認知して頂くための活動の一環として2003年度より開催してきた『講習会～こころを癒す～』を、今年度も開催した。

講習会を広報するとともに本相談所の存在を知ってもらい、心の問題を抱えているにもかかわらず専門機関に相談することをためらっている人に、本相談所を訪れるきっかけを作ることを目的とした。講習会の広報については、公共機関での広報、地域広報誌・ホームページへの掲載により行った。

講習会日程と参加人数

今年度は一般対象講習会を全5回開催した。開催日時およびテーマについては各講習会講師による講習会の概要報告の項を参照されたい。

講習会の延べ参加人数は99名であった。受講者の性別、年齢、職業、居住域、講習会を知った媒体については、以下の受講者傾向を参照されたい。併せて受講後アンケートの結果も以下に示してある。

受講者の傾向

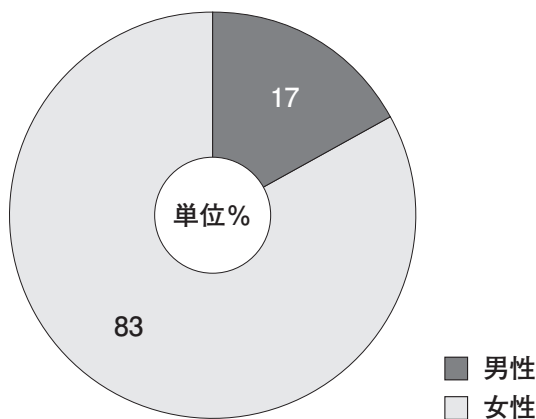


図1 講習会参加者性別構成

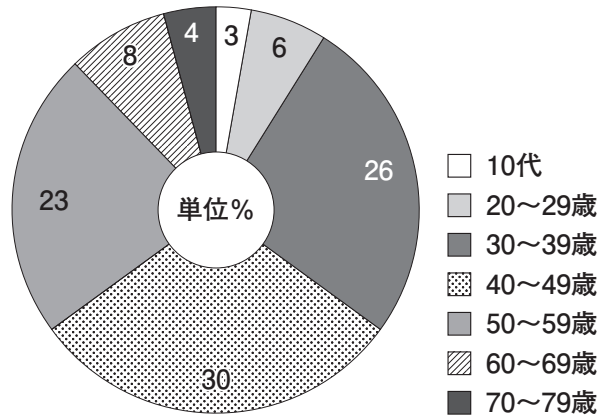


図2 講習会参加者年齢構成

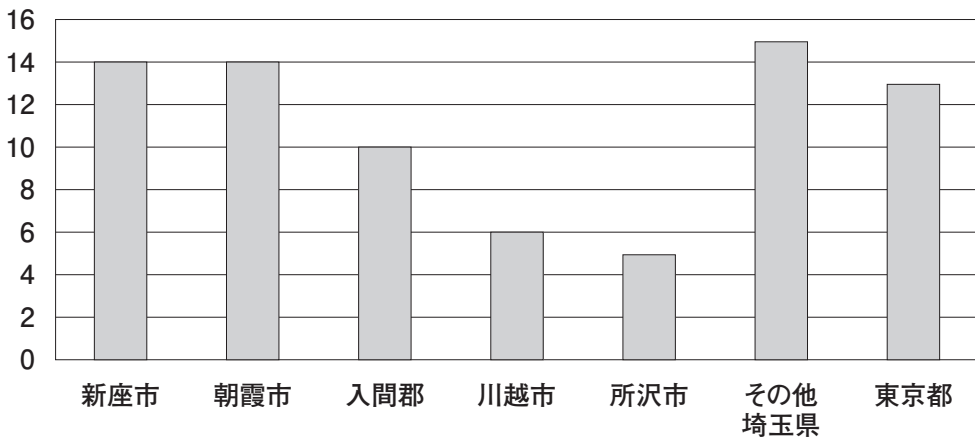


図3 講習会参加者居住地内訳

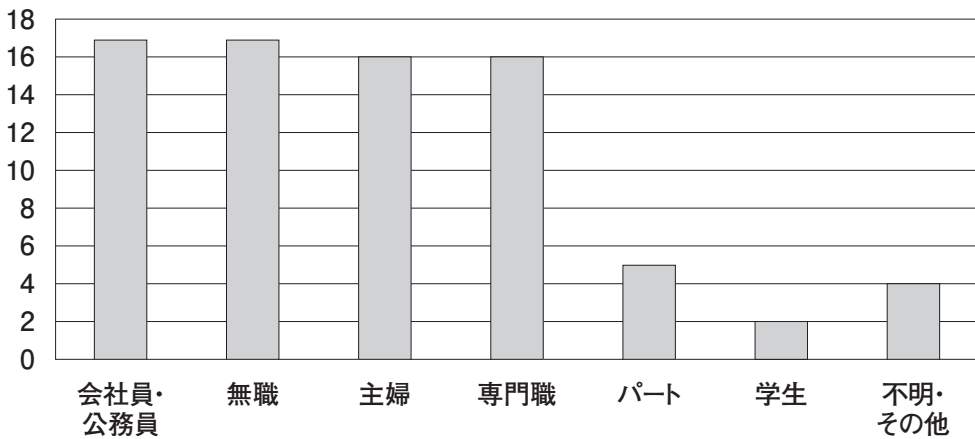


図4 講習会参加者職業内訳

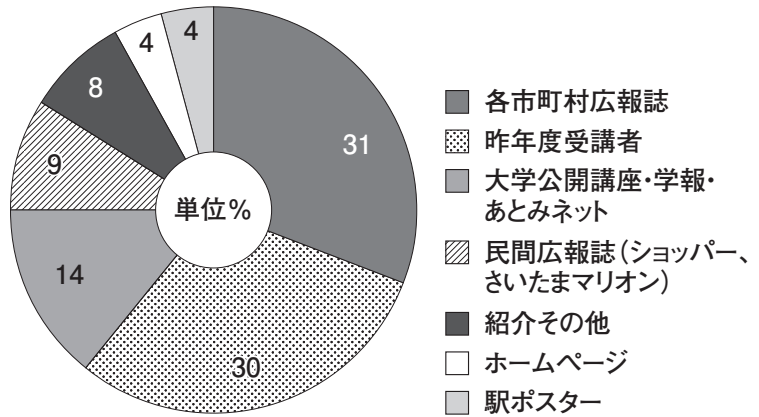


図5 講習会参加者経路内訳

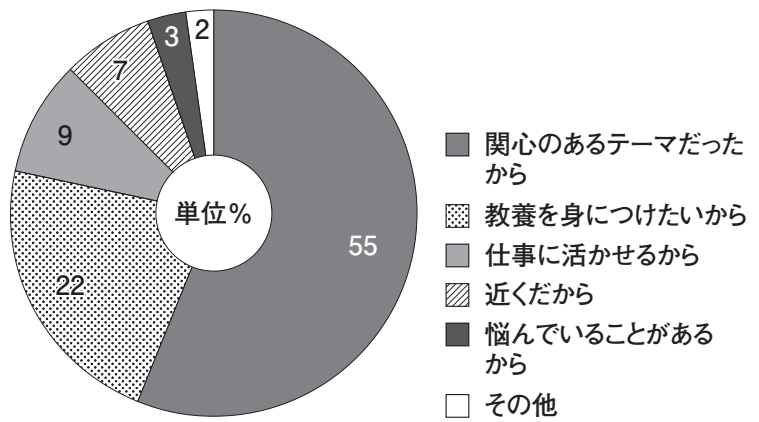


図6 受講した理由

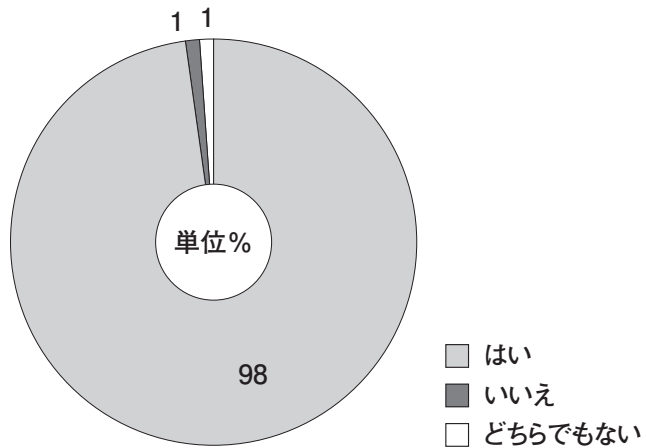


図7 講習会の内容を今後の生活に活かせると思うか

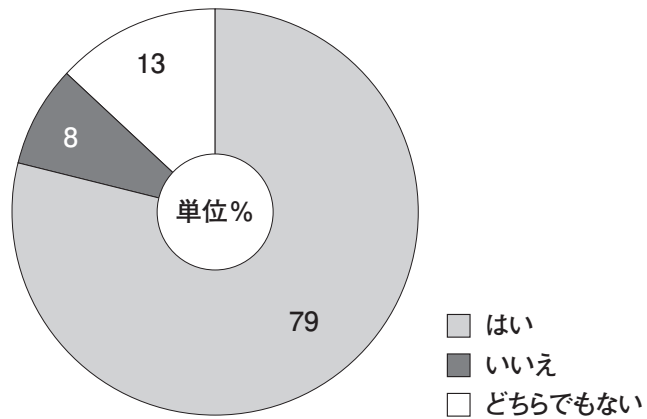


図8 自分自身の悩みや問題を解決する手助けとなったか

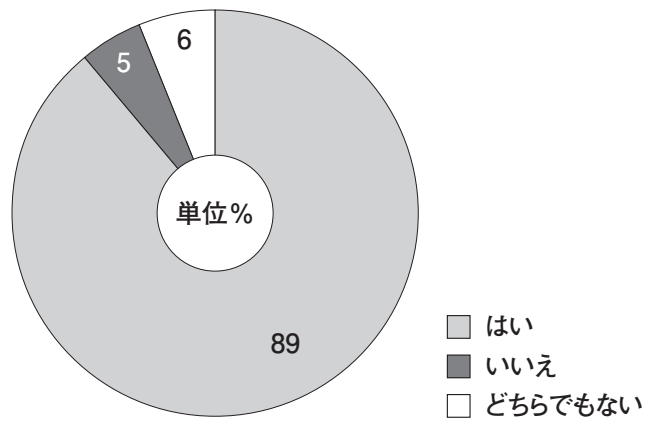


図9 受講内容は期待通りだったか

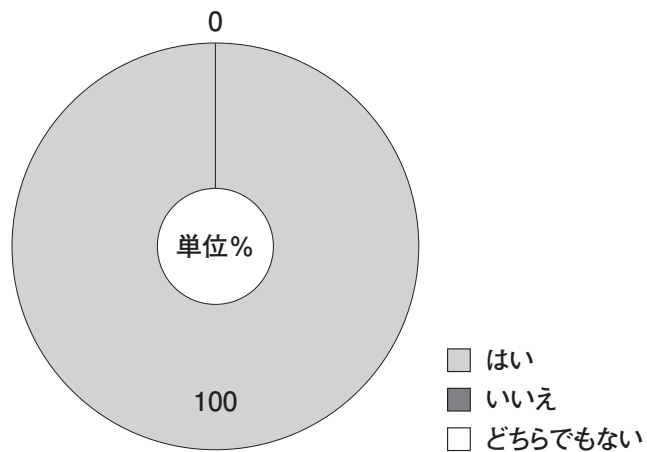


図10 講習会があったらまた参加したいか

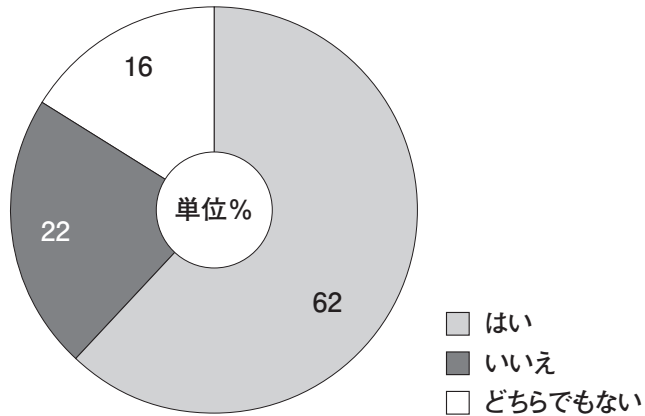


図11 機会があれば当相談所で相談してみようと思うか

5. 講習会 概要報告

<1> 7月9日(火)「さわやかな自己表現のためのトレーニング」 宮崎 圭子

本講習会は以下のように展開された。Furr (2000) の6ステップモデルを参考にプログラムを構成した。「怒りのマネージメント」といっても、一般の人には理解が難しいと考えた。サイコエデュケーションの参加者向けのタイトルとして「さわやかな自己表現のためのトレーニング」と銘打ち、参加者を募集した。そのため、レクチャーは、導入という位置づけでアサーションを採用した。①アサーションとは?、②アサーション実践の難易度と葛藤の関係、③アサーションが困難な状況の1つが「怒り」を感じる時、④アンガーマネージメントへというプロセスでセッションを展開していった。アンガー・マネージメントは、以下のように展開された。①エクササイズ1:「最近、ご自身が怒りを感じた時を思い出してみましょう。」の教示の元、怒り体験を想起、②「怒り」を引き起こす3つの要因(Cannon, 2011)を説明、③「怒りは破壊的な感情」を説明、④「隠された怒り」の説明、⑤エクササイズ2:エクササイズ1での「怒り体験」時で、他の感情があったかを想起、⑥怒りに隠された「心の痛み」(Cannon, 2011)の説明、⑦「怒り」は、多くの他の動物も持っている感情である、⑧エクササイズ3:なぜ「怒り」という感情を多くの動物が持っているのか、進化の過程でなぜ無くならなかったのかを、小グループディスカッション、⑨「怒り」の効用についてシェアリング、⑩当たり前の感情「怒り」に対して何が違うのか?、⑪エクササイズ4:「怒り」をうまく表出できなかったとき、どのような行動を取ったかを想起、⑫「怒り」の3タイプ(平木, 2009)の説明し、各3タイプの「怒り」への対処方法の説明、⑬リラクゼーション(呼吸法)の説明とその体験学習、⑭他者からの「怒り」への対処方法の説明、以上14段階で展開した。

従属変数	
現在イメージ	pre<post *** t (13) = -5.73
過去イメージ	n.s.
未来イメージ	pre<post ** t (14) = -3.01
時間イメージ	pre<post *** t (13) = -4.30
(** ; p<.01, *** ; p<.001)	

上記のように、本講習会実施後、参加者の現在イメージ、未来イメージ、時間イメージが有意にポジティブな方へ変容した。

< 2 > 7月20日(土)「こころを癒す～紙とクレヨンを使って～」 松寄くみ子

現代の私たちの生活は、忙しく、困りごとが多々あります。そのような中であっても、なんとか進んでいく毎日です。紙とクレヨンを使って「ゆっくり」や「ホッと一息」を工夫し、元気を養って、日々の生活に戻っていただけたらと思います。

私たちは、あまり意識はしていませんが、「緊張」と「弛緩」、「集中」と「拡散」、「活動」と「休息」を繰り返しています。うまくいっているときは、このリズムが上手に繰り返され、エネルギーが枯渇してしまうことなく、うまく充填しながら進むことができます。けれども、今の世の中はどうか？毎日忙しく、休む暇がありません。食事もゆっくり摂れなかったり、逆に食べ過ぎてしまったり、車ばかり利用して、運動が足りなかったりします。大自然に囲まれて、エネルギーを補給することも難しくなってきました。「緊張」「活動」「集中」の連続です。はじめは大丈夫かもしれませんが、このような状況がずっと続けられる訳がありません。でも、毎日前には進まなくてはなりません。

そこで、必要になってくるのが、「意識して」「弛緩」「拡散」「休息」の時間をとる…ということです。「リラクセーション」「適度な運動」「バランスのとれた食事」などを意識するとともに、心理的な側面からは「心の声を聴く」ことが大切になってきます。

今回の講習会では、「心の声を聴く」ひとつの方法として、自己表現、中でも取り組みやすい「紙とクレヨン」を題材にして、皆さんに「働きかけると、変化が起きる（自己効力感）」「デタラメでもよい」「間違えても大丈夫」といった、普段とは逆のような体験をしていただき、少しだけ、エネルギー補給をしていただけるようプログラムを組みました。毎日の生活のなかに、少しでも「意識的な休息」を取り入れて、エネルギーが枯渇してしまわないように、工夫して頂ければと思います。

< 3 > 9月21日(土)「老年期のこころの病気」 宮岡 佳子

まず、エリクソンの心理社会的発達理論における老年期について説明した。老年期に至るまで人生の課題があるとしたこの理論は、いつまでも人間は変化し、挑戦し続けることができるという前向きなメッセージを含有している。次に、老年期に見られやすいこころ

の病気として、不眠症、老年期うつ病、心気症、老人性認知症について説明した。〈不眠症〉 65歳以上で増加し、女性に多い。健康高齢者においても、睡眠時間の減少、中途覚醒の増加がみられる。さらに心理的ストレス、身体疾患の合併においても不眠をきたす。不眠症では、眠ろうと努力することが、かえって興奮し眠れなくなるという悪循環に陥りやすい。治療は、薬物療法だけでなく、個人が、睡眠のとり方や日常生活を工夫することが肝要である。〈老年期うつ病〉 老年期は、自らの身体的衰えを自覚すること、喪失体験が多いことなどが、心理的ストレスになりやすく、これらが発症の要因になることがある。治療は一般的なうつ病と同じである。〈心気症〉 身体のささいな不調にとらわれ、身体疾患でないかと不安になるが、身体的検索では異常がみられない精神疾患である。身体機能が低下する高齢者でおきやすい。〈老人性認知症〉 脳器質疾患であるが、重要であるため解説した。アルツハイマー型老人性認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症にわけ、それぞれの特徴を示した。認知症の周辺症状であるBPSD (behavioral and psychological symptoms of dementia) は、記銘力や判断力低下を背景に不安、焦燥、興奮、徘徊などを呈する症状をいう。認知症そのものは改善の見込みがない疾患であるが、BPSDは、周囲の対応を変えることで改善する見込みがある。認知症の薬物療法には、認知症治療薬はあるが、根本的な治療薬ではない。BPSDに対して向精神薬、漢方薬が用いられることがある。また認知症においてはケアが大切である。

聴講者は、高齢の方が多かった。この講義をきっかけに、心理教育相談所文京分室ATOMI さくらルームで開催中の、高齢者対象のコミュニティカフェに参加していただいた方がおり、ささやかな地域貢献ができた。

< 4 > 9月28日(土)「不登校の子どもの理解と対応」

野島 一彦

まず「不登校の子どもの理解」に関して、次のようなことを述べた。

- (1) 定義：何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状態にあること（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）。
- (2) 不登校の起こり方：不登校＝諸要因（本人・家庭・学校）×きっかけ。たった一つの要因だけで起こることは殆どなく、複合的要因で起こる。
- (3) きっかけ：あくまでもきっかけであり、原因ではない。不登校になる心の状態ができているところへの最後の一押し。①友人関係、②教師との関係、③学業のこと、④健康や容姿のこと、⑤その他。
- (4) 不登校のタイプ：①「無気力型」＝何となく登校しない、学習意欲に乏しい、②「遊び・非行型」＝非行グループ、③「情緒混乱型」（神経症型）＝『分離不安型』／『甘やかされ型』（慢性型）＝閉じこもりはひどくない、わがままな子、父は影薄い、母はやさしい（他者から合わせてもらいすぎ、鍛える必要あり）。／『優等生の息切れ型』（急性型）：閉じこもりがひどい、いい子、父は影薄い、母はしっかり者（親や教師の期待

に合わせすぎ、ゆるめる必要あり)、④「学校生活起因型」=人間関係やいじめ等明らかに学校が原因。実際には複合型が多い。

- (5) 経過：タイプにより多少異なる。『優等生の息切れ型』がもっとも典型的。①心気症の時期、②攻撃的時期、③自閉的時期、④回復期。

次に「不登校の子どもへの対応」に関して、次のようなことを述べた。

- (1) 早期発見の仕方。
- (2) 不登校状態発生の最初の約1週間のかかわり方。
- (3) 1週間経過後しばらくのかかわり方。
- (4) 不登校が数週間以上にわたる時のかかわり方。
- (5) 再登校前後のかかわり方。

< 5 > 10月5日(土)「明日“Tomorrow is another day.”」

片野 智治

今回の私の内容にはまとまりがない。思いは広がるばかりである。いつもはこんな感じではない。ご容赦を願いたい。

「つらいとき、かなしいとき、さみしいとき、心がいちばん嫌がること」は何だろうか。筆者は「やせ我慢」してしまうこと、「依怙地」になってしまうことだと思う。また指導されたり説得されることも、心が嫌がることである。

このようなとき、心がもっとも欲するのはあるがままに受けとめてもらえ、わが事として感じとってもらえることではないのか。

三木露風作詞「赤とんぼ」という歌がある。「夕焼け、小焼けの、赤とんぼ、追われてみたのはいつの日か。……」。これは5歳で別れた母恋いの歌である。

母といえば、多くの人が母親に「お結び」をつくってもらった記憶があるだろう。ある新聞記事によれば、お結びがおいしいのは、ここに「しあわせの隠し味」があるからだという。手を当て、抱きしめ、包み込む母の温もりがあるからだ。

病弱な母に育てられた筆者も、お結びをつくってもらったことや、抱きしめてもらった体験をおぼろげに覚えている。逝去の直前、ベッドの上に端座して、少女のような微笑をうかべた母を思い出す。

2013年8月11日付朝日新聞の記事「どこにいるんだ…震災2656人なお不明」という記事があった。キャビネ版大の写真が掲載されていた。一時帰宅のたびに、行方不明の娘さんを探す父親の後姿だった。「汐風。海から戻って来たくないのかな。」という小見出しが添えられていた。

アイルランドの歌に“You Raise Me Up.”がある。「落ち込んで、心底うんざりした時、困難に見舞われ、心に重荷を抱えた時、私はここで、ただ静かに待つ。あなたが来て、そっと寄り添ってくれるまで。あなたが励ましてくれるから、山の頂きにも立てる。あなたが励ましてくれるから、荒らぶる海も渡ってゆける。私は強くなれる、あなたの支えがあれば。あなたが励ましてくれるから、私以上の私になれる。」

19世紀の世界史の中で、「アイルランドの移民」は著名である。100万人が米国へ移住した。ジャガイモの胴枯れ病が原因であった。

「明日」というのはどのような意味を持つのか。このようなことを参加者に語りながら自問自答した講座だった。

小学生の頃よくこう言って別れた。「また明日ね。明日も遊ぼうね!」と。諸国を行脚した円空和尚は「みちすがら ぶじを念じます。」と祈り続けたという。私をカウンセリング・サイコロジストに育てて下さった國分康孝Ph.D.・國分久子M.A.は、別れ際に“See you again, someday or somewhere!”とおっしゃいながらいつも握手してくださいました。

6. OB・OGカンファレンス報告

臨床心理学専攻の修了生（1～7期生：80名）の<院修了後教育>として、心理臨床家としての資質向上のために、月に2回（火曜、土曜）、文京キャンパス、文京分室で「OB・OGカンファレンス」を実施している。以下が今年度の参加状況である。

2013年度 OB・OGカンファレンス報告

跡見学園女子大学人文科学研究科臨床心理学専攻（平成24年度までの修了生=80名）

回	日程	OB・OG参加者数	教員参加者数	院生参加者数	総数
1	4月13日（土）	3	1	3	7
2	4月23日（火）	4	3	3	10
3	5月11日（土）	5	4	4	15
4	5月28日（火）	9	3	9	21
5	6月8日（土）	7	1	6	14
6	6月25日（火）	7	2	4	11
7	7月13日（土）	4	2	5	11
8	7月23日（火）	5	1	5	11
9	8月10日（土）	夏季閉所期間につき中止			
10	8月27日（火）	日本心理臨床学会のため中止			
11	9月7日（土）	3	3	3	9
12	9月24日（火）	5	4	3	12
13	10月12日（土）	3	1	3	7
14	10月22日（火）	3	1	5	9
15	11月9日（土）	3	2	2	7
16	11月26日（火）	6	2	6	14

17	12月14日 (土)	4	1	3	8
18	12月24日 (火)	3	2	3	8
19	1月11日 (土)	4	1	4	9
20	1月28日 (火)	2	2	4	8
21	2月8日 (土)	4	1	1	6
22	2月25日 (火)	7	3	3	13
23	3月8日 (土)	4	0	3	7
24	3月25日 (火)	5	1	4	10
	2013年度合計 (のべ数)	100	41	86	227

7. 委員会報告

2013年度の委員会開催は、以下の通りであった。

第1回 心理教育相談所委員会

日 時：2013年6月12日 (水) 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：村越行雄、野島一彦、松寄くみ子、宮岡佳子、宮崎圭子

- 内 容：1. 平成24年度心理教育相談所活動報告
2. 平成24年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告
3. 平成25年度心理教育相談所活動報告 (4・5月期)
4. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告 (4・5月期)
5. 平成25年度心理教育相談所広報活動計画
6. 平成25年度心理教育相談所講習会日程
7. 文京分室ATOMIさくらルームについて

第2回 心理教育相談所委員会

日 時：2013年10月23日 (水) 14：40～15：10

場 所：2号館2571会議室

出席者：村越行雄、野島一彦、松寄くみ子、宮岡佳子、宮崎圭子、酒井佳永

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告 (4～9月期)
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告 (4～9月期)
3. 平成25年度心理教育相談所講習会実施報告
4. 平成25年度心理教育相談所紀要について

第3回 心理教育相談所委員会

日 時：2014年2月19日（水） 10：30～11：00

場 所：2号館2571会議室

出席者：村越行雄、野島一彦、松寄くみ子、宮崎圭子

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（4～1月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（4～1月期）
3. 平成26年度心理教育相談所開所日程について
4. 平成26年度心理教育相談所予算について
5. 心理教育相談所相談員・補助相談員の任命に関する件
6. 平成26年度心理教育相談所インターン合否判定

臨時 心理教育相談所委員会

日 時：2014年3月1日（土） 15：30～16：10

場 所：2号館2571会議室

出席者：村越行雄、野島一彦、松寄くみ子、宮崎圭子

- 内 容：1. 平成26年度心理教育相談所インターン合否判定（再審議）

8. 担当者会議報告

平成25年度の心理教育相談所担当者会議開催は、以下の通りであった。

第1回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2013年4月10日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、中野、野島、藤澤、松寄、宮岡、山口、阿部、酒井、宮崎

- 内 容：1. 平成24年度心理教育相談所活動報告
2. 平成24年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告
3. 平成25年度心理教育相談所講習会について
4. 平成24年度OG・OBカンファレンス報告
5. 不登校を考える親の会報告
6. 文京分室について
7. スーパービジョン研修会について

第2回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2013年5月8日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、中野、野島、藤澤、松寄、宮岡、山口、阿部、酒井、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（4月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（4月期）
3. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
4. 不登校を考える親の会報告
5. 文京分室の開室について
6. 心理検査について
7. 教員による外部者のスーパービジョンの扱いについて

第3回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2013年6月5日（水） 16：00～17：00

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、中野、野島、松寄、山口、阿部、酒井、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（5月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（5月期）
3. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
4. 不登校を考える親の会報告
5. 文京分室について
6. 心理教育相談所パンフレットのリニューアルについて

第4回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2013年7月10日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、野島、藤澤、松寄、宮岡、阿部、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（6月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（6月期）
3. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
4. 「不登校を考える親の会」報告
5. 広報について
6. 心理教育相談所紀要の配布について
7. スーパービジョン研修会報告
8. シニアのコミュニティカフェさくらについて

第5回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2013年9月11日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：野島、藤澤、松寄、宮岡、山口、阿部、酒井、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（7・8月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（7・8月期）
3. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
4. 「不登校を考える親の会」報告
5. 文京分室ATOMIさくらルームにおける秋学期予定行事について
6. 心理検査のみの希望で来所されたクライアントのインテーク面接について
7. ベビーシッターの有料化および担当制について
8. 3ケース未満のケース担当のM2について
9. インターン説明会について
10. 「自己点検・評価委員会」担当委員の選出について
11. 文京区との連携について
12. 心理教育相談所紀要第10号への投稿について

第6回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2013年10月9日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：野島、藤澤、松寄、宮岡、山口、阿部、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（9月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（9月期）
3. 平成25年度心理教育相談所講習会実施報告
4. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
5. 「不登校を考える親の会」報告
6. ATOMIさくらルーム「子育てセミナー」実施報告
7. スーパービジョン研修会報告

第7回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2013年11月6日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、野島、藤澤、松寄、宮岡、山口、阿部、酒井、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（10月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（10月期）
3. ATOMIさくらルーム「シニアのコミュニティカフェ」実施報告
4. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
5. 「不登校を考える親の会」報告
6. スーパービジョン研修会報告

第8回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2013年12月11（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、野島、藤澤、宮岡、阿部、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（11月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（11月期）
3. ATOMIさくらルーム「子育てセミナー&語り場」実施報告
4. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
5. 「不登校を考える親の会」報告
6. 平成26年度心理教育相談所インターン選考実施要項について
7. 平成26年度ATOMIさくらルームの開室日について

第9回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2014年1月15日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、野島、藤澤、松寄、宮岡、山口、阿部、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（12月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（12月期）
3. ATOMIさくらルーム「シニアのコミュニティカフェ」実施報告
4. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
5. 「不登校を考える親の会」報告
6. スーパービジョン研修会報告
7. 学外実習関連書式の変更について
8. 心理教育相談所2月期・3月期担当表について

第10回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2014年2月5日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、野島、藤澤、松寄、宮岡、山口、阿部、宮崎

- 内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（1月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（1月期）
3. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
4. 「不登校を考える親の会」報告
5. スーパービジョン研修会報告
6. 平成26年度心理教育相談所開所日程について
7. 平成26年度心理教育相談所講習会について

8. 心理教育相談所相談員・補助相談員の任期について

第11回 心理教育相談所担当者会議

日 時：2014年3月12日（水） 12：20～12：50

場 所：2号館2571会議室

出席者：片野、野島、藤澤、松壽、宮岡、山口、宮崎

内 容：1. 平成25年度心理教育相談所活動報告（2月期）
2. 平成25年度臨床心理学専攻大学院生学外実習報告（2月期）
3. 平成25年度OG・OBカンファレンス報告
4. 「不登校を考える親の会」報告
5. スーパービジョン研修会報告